

# 新型インフルエンザ 予防対策を万全に

## 新型インフルエンザとは

鳥や豚などの動物から人へ感染することがあっても、人から人へは感染しないウイルスが、人から人へ感染しやすくなる性質を持つように変異するのが「新型インフルエンザウイルス」で、このウイルスに感染して起こる病気が「新型インフルエンザ」です。現在、メキシコや米国、日本国内でも豚由来の新型インフルエンザが多数発生していることから注意が必要です。

## 新型インフルエンザの感染が疑われるのは次のような方です

体温が38度以上の発熱または、急性呼吸器症状があり、かつ次のア～ウのいずれかに該当する方  
ア) 感染可能期間内（発症1日前から発症後7日目までの9日間）に新型インフルエンザ患者と濃厚な接触歴がある方

イ) 新型インフルエンザがまん延している国または、地域に滞在もしくは旅行した方

### ■急性呼吸器症状とは■

少なくとも以下の二つ以上の症状が出た場合をいう  
鼻汁もしくは鼻づまり・のどの痛み・せき・発熱または悪寒

### ■濃厚な接触歴とは■

直接接触したことまたは、2m以内に接近したことをいう



## 予防対策

新型インフルエンザの予防は、通常のインフルエンザ対策と同様で次のような対策があります。

- ①うがい・手洗い・マスクの着用
- ②十分な栄養や睡眠で、体力や免疫力を高め、感染しにくい状態を保つ
- ③通常のインフルエンザワクチンの予防接種を受けておく

## 「せきエチケット」

### 人にうつさないマナー

「せきエチケット」とは、周囲の人にうつさないような思いやりと心がけです。

- せき・くしゃみが出たら、ほかの人にうつさないためにマスクを着用しましょう
- 鼻汁・たんなどを含んだティッシュは、すぐにごみ箱に捨てましょう
- せきをしている人にマスクの着用をお願いしましょう

## 新型インフルエンザにかかったら「冷静に、あわてずに」

- 感染した可能性がある場合は、保健所に設置されている発熱相談センターに電話で問い合わせ、指定の医療機関で受診してください
- 受診の際は、必ず電話で事前に連絡し、時間や入り口などを問い合わせてください
- 外出は自粛し、マスク着用など「せきエチケット」に心がけてください

## お問い合わせは下記の機関へ

- 北見保健所発熱相談センター (☎ 24-4173 FAX 24-4199 土・日曜日・祝日含め9時～21時)
- 北海道保健福祉部保健医療局健康安全室 (☎ 011-204-5253 FAX 011-232-2013 土・日曜日・祝日含め24時間体制)

## 住宅用火災警報器の設置を



住宅用火災警報器はもう設置しましたか？

火災による死者の6割が逃げ遅れです。火災による逃げ遅れを防ぐために住宅用火災警報器の設置が消防法で義務付けられています。既存の住宅は、平成23年6月1日から施行されます。(新築一戸建て住宅は平成18年6月1日から施行)

設置する場所は、就寝する部屋(寝室)です。寝室が2階の場合は避難経路である階段にも取り付けが必要となります。

購入する際は「鑑定マーク(NSマーク)」の付いたものを選んでください。

不明な点がありましたら消防署訓子府支署(☎ 47-2419)までお問い合わせください。

## 悪質な訪問販売などにご注意

消防署や市町村が直接、住宅用火災警報器などを販売することはありません。

また、特定の業者に商品をあっせんしたり、販売を依頼することもありますのでご注意ください。

## ホームタンクの転倒 油漏れに注意を

町内で、転倒したホームタンクから軽油が漏れて河川に流出する事故が発生しました。この事故ばかりでなく毎年5～6件の油漏れ事故が発生しています。

灯油などの油が河川や道路、土壌などを汚染すると莫大な処理費用がかかります。日ごろから点検をし、事故を起こさないように心がけましょう。

- 地盤の安定した場所に設置しましょう
- 2基並べる場合は1m以上離しましょう

■屋内用タンク(90ℓタンク)は屋外で使わないようにしましょう

■冬期間の積雪の影響などで、配管が折れ曲がっていたり、ストレーナーが割れていないか確認しましょう

■タンクの溶接部分や配管がさびていないか確認しましょう

■軽油を農機具などに給油するときはその場から離れないようにしましょう

■事故の際の連絡先  
総務課交通防災係(☎ 47-2112 役場2階 窓口10番)  
消防署訓子府支署(☎ 47-2419)



## 火災のない楽しいレジャー 行楽シーズンの火災予防

キャンプなど、屋外での活動が増える行楽シーズンになりました。火災のない楽しいレジャーにするために、次のことに注意しましょう。

- タバコは灰皿のある決められた場所で吸うか、携帯灰皿を携行し、投げ捨ては絶対にやめましょう
- ごみ類は火災発生の原因になりますので、各自で持ち帰りましょう
- 火気を取り扱うときは、完全に消火するまでその場を離れないようにしましょう

## 旅館・ホテルなどを利用される方へ

■宿泊室から2通り以上の避難経路、非常口などの案内図を参考に、実際に歩いて確認しておきましょう

■タバコの火は完全に消えたことを確認し、寝タバコは絶対にしないようにしましょう

■非常用懐中電灯や消火器、避難器具などを確認しておきましょう

※万一、火災が発生した場合は、慌てることなく従業員の指示に従ってください。

火事と救急は「119番」に

災害案内は☎ 25-5411

北見地区消防組合  
消防署訓子府支署